

公民館講座スタート

皆さんの意欲に応えるべく、公民館講座の環境が整いました。全部で13種の一般講座となんでも塾の定期とフリーの8種の講座に、180名もの応募がありました。スタートが10月となり、例年とは大きく異なる出だしになってしまいましたが、みなさん、和気藹々と楽しんでくださる様子が伝わってきます。ただ、コロナ禍の中、講座の開始を待ち望んでいた方もあれば、「まだまだ、自粛しなければ。」と考えた方もあったと思います。コロナの動向を見ながら、安全を第一に「慎重に」再開といった面もありますが、受講生の期待に応え、蛭川の文化の灯を灯し続けていけることを願っています。

あじさい学級

あじさい学級では、開級式を行いました。36名の学級生を迎えましたが、会場では、隣の人との間隔を十分にとり、安心と安全に配慮して実施しました。



記念講演では、今年赴任されたばかりの蛭川診療所、猿渡凌先生の講演を聴き、感染症について、また、その防ぎ方について学びました。

ホタルの幼虫を放流

秋晴れの下、カワニナを放流した下沢川にホタルの幼虫を放流しました。参加したのは、蛭川保育園児と福祉施設「ひなたぼっこ」のみなさんです。美しい下沢川の川底では、カワニナたちが大きく育っていました。そこに小さな幼虫を100匹ほど放流しました。「来年元気に飛び回っている姿を見に来られたらいいね。」と話しました。



「令和3年度公民館講座」の準備開始 開設してほしい講座はありますか？

令和2年度、蛭川公民館では13の公民館講座を開設しました。講座は原則3年間継続できるため、来年度もそのまま開設する講座がありますが、新しい講座も開設する予定です。



こんな講座を開設してほしい、こんな講座を開設したい(自分または誰かが講師で)・・・といった希望があれば是非お知らせください。

○地域の絆づくり講座

- ・あじさい学級、遊びの広場、なんでも塾
- ・文化歴史自然散歩、子ども歌舞伎

○開設して2年の講座

- ・ウォーキング、水彩画、わらぞうり教室

○開設して1年の講座

- ・麻雀、古文書、飾り寿司、己書

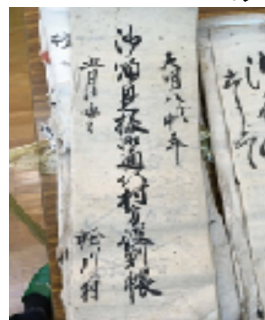
○サークル化した講座

- ・スポーツ吹き矢、ヨガ、筋トレ、体操

○復活予定 囲碁・将棋

古文書発見の顛末

江戸時代の蛭川村の
古文書 御順見様通行
村方役割帳「天明八年
(一七八八年)綴りが見
つかりました。



十月十二日、殿塚の渡辺浩通様宅を訪れました。渡辺様より「土蔵の整理をしていたら、以前に永治鹿三郎様から預かったカリト(長持)に、明治の古い文書の綴りがあるから見てほしい」と山田次男様を通じて郷土資料館加藤に連絡があり、資料館三人と山田様で伺いました。

渡辺様曰く、「中切の鉄砲屋(てつのおや)という呼び名もあった)永治初太郎元村長宅にあったカリト(平仮名で『て』と記されている)を永治鹿三郎元村長が預かり、自宅を壊すときに大事なものが入っていたと、さらに俺が預かった。が、しばらく忘れていて今年になって土蔵を整理していたら出てきた。推理をすれば、おそらく初太郎元村長が調べ物をするために、戸長役場

より持ち出していた綴りがそのまま残っていたのではないだろうか。」

早速、郷土資料館で預かり、カリトの中身を拝見、綴りの表紙に記述の年号を調べたところ、天明八戌申年(一七八八年)に行われた御巡見の記録(写真参照)、また天保九年(一八三八年)の御巡見の記録を含め、明治初期の各種の記録など百二十七綴りが出てきました。

村史には、「明治二一年に連合役場が火災にかかり焼失した。蛭川村にあった庄屋記録は、林庄屋の引継時にカリトに一杯もあったというが、この火災ですっかり灰になってしまった。」

また、村史あとがきでは、「本村は往時から貧しい農山村であったため、その時代を知る古文書など皆無にちかく、殊に明治二一年役場の火災により、庄屋文書などすべてを消失していた」・・・とあります。

ちなみに巡見については村史二六一頁に「この村には、これに関する記録もいい伝えもなく、ただ『赤鞘の武士が来て威張るので恐ろしかった』とだけいい伝えられています。よって以下中野方町史の所載により、そのあらましを知ることによろう。」

と記されています。

今回出てきた文書が村史編纂当時に見つかったいたら、小川壮二様をはじめとする編纂委員の方々にとっては本当に貴重な資料だっただろうと思います。村史編纂より約半世紀後に見つかった古文書、蛭川村のその時代を知る事につながる大変重要な資料であります。時間は掛かりますが資料館にて解読していければ幸いです。

ひよっとしたら捨てられていたかもしれないこのカリト、文書の保存状態は良好のようです。土蔵の中に預かっていただいた渡辺浩通様に感謝申し上げます。

(文責 郷土資料館 加藤・曾我・奥村)

編集子

早くも年の瀬を迎える時期となりました。▽蛭川にとって極めて貴重な古文書が見つかりました。現在、資料の整理や解読が進められており、江戸時代の蛭川のことを垣間見ることができると、現代に残してもらった楽しさを味わえそうでわくわくしてきます。▽コロナという目に見えない敵と共存するのは苦しいことです。周りの人が信じられなくなるのはもつと辛いことであり、差別や偏見は、さらに恐ろしいことです。▽そんな世情に負けず、おきまりのせりふですが、来年こそよい年になりますように！

